三つの検証と検証総括がめざしたもの

◇原発の安全性は県の問題であり、県民の安全に責任を負う
◇総括委は常に全体総括を行い、途中途中で県民に判断材料を示す

～「米山隆一さんと検証総括を語る会」米山さん　熱く語る～

花角現知事が、検証総括委員会を機能させないまま自然消滅させた上、県職員が総括を行うとする中、6月24日まちなかキャンパスで前知事米山さんと語る会を開きました。

初めに、三つの検証委員会と検証総括委員会を立ち上げた米山さんがめざしたこと、その後の経過と現状について話して頂きました。検証総括委に大きな役割があったこと、三つの委員会に論点のみでなく判断材料となる提案を求めていたこと、そしてそれらが花角知事によってないがしろにされたことなどが具体的に語られました。

56人の参加者からは、事故時の避難、花角知事の公約や県民の声を聞く姿勢、東電でなければよいのか、活断層と原発など多岐にわたる質問や意見が次々に出され、米山さんは時間いっぱい真摯に答えておられました。

＊避難委員会を傍聴した折、柏崎刈羽原発の事故を想定した被曝のシミュレーションの必要性を委員の方たちが強く求め、県も認めていました。米山さんからシミュレーションの重要性を聞き、県がせめてそれだけでも早急に実施してほしいと思いました。（し）

市民検証委員会@長岡（仮称）結成に向けて

花角知事が検証総括委員会を消滅させ県単独で報告書を作成するとする中、池内了前検証総括委員長は市民とともに検証報告書をまとめ上げたいとしています。以前からタウンミーティングの必要性を説き、県民の意見を反映させるべきだとしてきました。市民検証委員会結成に向け、長岡でも幅広く呼びかけた取り組みが始まっています。

＊「検証委員会をどうする・池内了さんとの対話集会」のご案内

8月27日（日）13時30分～　ハイブ長岡で。　ご参加ください。

☆☆☆